

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-740	17-050	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名（原題／訳）		
Alcohol use and risk of intracerebral hemorrhage. 飲酒と脳出血リスク		
執筆者		
Chen CJ, Brown WM, Moomaw CJ, Langefeld CD, Osborne J, Worrall BB, Woo D, Koch S; ERICH Investigators.		
掲載誌		
Neurology. 2017 May 23;88(21):2043-2051. doi: 10.1212/WNL.0000000000003952.		
キーワード		PMID
飲酒、脳出血、脳葉内出血		28446657
要 旨		
目的： 飲酒と脳出血との用量-反応関係を分析する。		
方法： 脳出血のある非ヒスパニック系白人、非ヒスパニック系黒人、ヒスパニック系患者それぞれ 1,000 人を対象とした、多施設共同および前向きケース・コントロール研究である Ethnic/Racial Variations of Intracerebral Hemorrhage (ERICH) 研究のデータを用いた。ケースと脳出血のないコントロールは、年齢、性別、人種/民族性、および地域をを 1 : 1 の比率でマッチングした (n=2,660)。インタビューにより得られた飲酒に関する情報を基に、対象者を非飲酒者 (過去 3 カ月飲酒していない者)、機会飲酒者 (1drink/月)、中等度飲酒者 (≥1 drink/月 及び ≤2 drinks/日)、中間飲酒者 (>2 drinks/日 and <5 drinks/日)、多量飲酒者 (≥5 drinks/日) に分類した。1drink は 12 オンスのビール、4 オンスのワイン、1.5 オンスのリキュールとして定義した。多変量解析により、非飲酒者をリファレンスとした脳出血のリスクを算出した。		
結果： 多変量解析の結果、飲酒と脳出血リスクの関連を認めた: 非飲酒者 (オッズ比 [OR]: 0.57, p < 0.0001)、中等度飲酒者 (OR: 0.65, p < 0.0001)、中間飲酒者 (OR: 0.82, p = 0.2666)、多量飲酒者 (OR: 1.77, p = 0.0003)。サブグループ解析では、機会飲酒と中等度飲酒は脳葉内出血および非脳葉内出血のリスク低下に関連していた。また、多量飲酒は、非脳葉内出血のリスク増加と強い関連を認めた (OR: 2.04, p = 0.0003)。黒人とヒスパニック系患者における非脳葉内出血リスク増加を認めた一方 (OR: 2.34, p = 0.0140; OR: 12.32, p < 0.0001)、白人患者において同様の関連は認められなかった。		
結論： 機会飲酒と中等度飲酒の脳出血リスクに対する潜在的な保護効果、多量飲酒と脳出血リスク増加の関連を認めた。また、人種・民族性は、飲酒に関連する脳出血リスクの重要な要因であった。		